

会 議 名	令和7年度(2025年度) 第1回八王子市食育推進会議	
日 時	令和7年5月22日(木) 14時30分～16時00分	
場 所	八王子市保健所4階 401会議室	
出席者氏名	委 員	葛西 真弓、勝田 芳子、松本 賢一、峰尾 幸代、岡部 貴代、岩瀬 政子、小池 さとみ、内藤 里美、浦野 真沙子、松久保 雅和、篠原 由美子、田川 富美子、町田 淳一、三宅 久美
	事 務 局	田中保健所長、志村健康づくり推進課長、仲宗根主査、茂木主任、上地
欠 席 者 氏 名	加藤 直樹、野下 清子	
議 題	(1) 第3期八王子市食育推進計画の令和6年度実績及び評価について (2) 第4期八王子市食育推進計画について	
公開・非公開の別	公開	
非 公 開 理 由		
傍 聴 人 の 数	なし	
配 付 資 料 名	次第 【資料1】 八王子市食育推進会議委員名簿 【資料2】 八王子市食育推進会議開催要綱 【資料3-1】 第3期八王子市食育推進計画令和6年度取組評価一覧 【資料3-2】 第3期八王子市食育推進計画における取組評価一覧 【資料4-1】 第4期八王子市食育推進計画の考え方について 【資料4-2】 八王子市民の食育に関する意識調査の結果等について 【資料4-3】 ワークショップについて ご意見シート	

【会議の内容】

《開会》

発言者	内容
健康づくり推進課長	定刻となりましたので、ただいまより令和7年度第1回八王子市食育推進会議を開催いたします。委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中、御出席をいただき、誠にありがとうございます。本推進会議は設置要綱にもございますように、八王子市における食育に関する取り組みを総合的な見地から協議、意見交換を行う場としております。また、本食育推進会議は原則、公開となっていることから、会議録作成のため録音をさせていただきますので、ご了承ください。 なお、議事録については議事録案を作成し、皆様に内容の確認を行った後、本市のホームページで公開しております。議事録における委員の発言につきましては、これまでと同様に委員の皆様の個人名は記載せず、「委員」と表記させていただきます。 また、本日配付しております【資料1】の名簿については、この内容でホームページに公開させ

	ていただきますので、よろしくお願いいたします。 本日の傍聴人はいないのでこのまま進行します。 それでは、会議の開催に先立ち、保健所長より御挨拶をさせていただきます。
保健所長	八王子市保健所長の田中でございます。 皆様におかれましては、大変お忙しい中、御出席をいただき、誠にありがとうございます。 本日は、委員の皆様と総合的な視点での意見交換を行いたいと思っておりますので、みなさまから積極的な御発言をいただきますようお願いいたします。どうぞ、よろしくお願いいたします。
健康づくり推進課長	ここから、八王子市食育推進会議開催要綱、第5条により、会議の進行を保健所長にお願いします。
保健所長	それでは、議事に入ります。議事 1、「第3期八王子市食育推進計画の令和 6 年度実績及び評価について」、事務局より説明をお願いします。
事務局	議事1、第 3 期八王子市食育推進計画の令和6年度実績及び評価についてご報告させていただきます。配布資料の「3-1 第3期八王子市食育推進計画 令和6年度評価取組一覧」をご覧ください。実績については記載のとおりで、104 つの評価取組のうち、101 個の取組が A 評価、1 つの取組が B 評価、2 つの取組が D 評価となっています。 まず、B 評価と D 評価について、説明します。配布資料の「3-2 第3期八王子市食育推進計画における取組評価一覧」の 4 ページ目、上から 4 行目の網掛けの部分をご覧ください。B 評価の取組は、取組項目 47 番の「特定健康診査、特定保健指導の実施」についてです。特定健康診査の受診率については、東京都と同水準、特定保健指導の実施率については、東京都より高い実施率を保っていますが、国が定めた目標値が高い数値に設定されており、目標値に達することが難しい状況であるとのことから B 評価となっています。成人保健課では、働き盛りの世代も利用しやすいよう、市内複数の会場を確保し、休日も含む日程で特定保健指導を実施するとともに、ICT を活用した面談も取り入れ、実施率向上を図っているとのことです。 続いて、D 評価の取組についてです。2 ページ目の 5 行目、6 行目の網掛けの部分をご覧ください。取組番号 25 番 26 番の「児童館との食育連携事業の実施」についてです。こちらについては、当初児童館での料理教室を行う予定でしたが、令和 3 年度と 4 年度については、新型コロナウイルス感染症により実施は行っておりません。令和 5 年度以降については、児童館が子ども・若者育成支援センターに改められ、主な業務をアウトリーチ支援(相談業務)に移行したため、実施が難しくなったとのことで、評価不能としています。 続いて、A 評価の中から、令和 6 年度に新たに達成できた取組について、いくつか報告させていただきます。 始めに、同じページの取組番号 21 番をご覧ください。学校給食課の「地場産物の活用や給食センターの整備などによる学校給食の充実」についての取組です。昨年度、市内で5つ目となる給食センター寺田が開設したことから、自校・親子方式を含む、八王子市立のすべての中学校で給食の提供が可能となりました。給食センターでは、年間を通して親子料理教室を行ったり、月に 4 回程度、給食試食会を行ったりしています。他にも地域の方向けの活動やイベントを行い、地域の活動拠点としても給食センターが活用されています。 続いて、取組項目 31 番の「学童保育所での昼食の提供」についてです。3 ページ目の上から 2 行目をご覧ください。給食センターでは、食支援の一環として小学校の夏休み期間に、「夏休み元気応援ランチ」の名前で、学童保育所への昼食の提供を行っています。昨年度は、令和 5 年度より昼食提供校を増やし、58 校、90 か所の学童保育所に昼食を提供しました。期間は学

	校によって異なりますが、多くの学校で5日間実施しています。 続いて、取組項目33番の「学生に対する食育事業の周知・啓発」についてです。同じページの上から4行目をご覧ください。昨年度、学園都市文化課と大学と連携し、市内の2つの大学で食育に関する事業を行いました。 1つ目は、帝京大学の学園祭にて健康づくりブースを出展しました。ブースの出展では、食育に関して、大学生だけでなく来場者の方々に「朝食」についてのアンケートを取ったり、食事バランスや朝食の大切さなどについて啓発を行ったりしながら、リーフレットの配布をいたしました。 2つ目は、明星大学経済学部授業の一環である、課題解決型授業において、「若者の野菜摂取を増やすためには」というテーマで講義を行い、学生から課題解決の提案をいただきました。昨年度は、主にこの2つの取組において、学生に対し食や栄養に関する周知啓発を行いました。 今年度も、様々な所管や、企業、大学などと連携し、食育に関する取組を進めていきたいと思っています。以上で、第3期八王子市食育推進計画の令和6年度実績及び評価について報告を終わります。
保健所長	事務局の説明が終わりました。御質問、御意見等はございますか。
委員	取組の評価を行う基準について教えていただけますでしょうか。
事務局	各取組の実績及び評価等については各所管課に回答をいただいております。毎年、第3期の目標を各所管課で定めた上で、実績に基づいて各課の判断により評価を行っています。
保健所長	それでは、議事2、「第4期八王子市食育推進計画について」、事務局より説明をお願いします。
事務局	第4期食育推進計画の全体像についてです。政策会議で決定しました「計画期間」「基本的な考え方」「策定体制・スケジュール」は記載の通りです。第4期食育推進計画策定により、ライフステージライフコースに合わせた健康づくりを推進してまいります。 食育推進計画の位置づけについてです。八王子未来デザイン2040のもとに、「健康」と「医療」2つの視点をあわせもつ「健康医療計画」があり、この「健康医療計画」を補完する計画として4つの個別計画が紐づいております。そのうちの 하나가「食育推進計画」となっております。なお、食育推進計画は、食育基本法や、国の食育推進基本計画、東京都の食育推進計画と整合を図っています。 次に、計画期間についてです。上位計画である健康医療計画と、食育推進計画以外のほか3つの計画はすべて計画期間がそろっており、これらの計画と整合性を図っていくため、第4期計画は4年間の計画期間といたします。 八王子市が持つ豊富な食資源として代表的なものを資料に記載しております。このような豊富な食資源を時期計画に活かしていきたいと考えております。 次に、第3期食育推進計画の特徴的な取組についてです。中でも災害用食料備蓄の推進としまして、東京都栄養士会と令和4年に災害協定を締結し、イベントや市の総合防災訓練にて災害食に関する普及啓発を実施しております。 続いて、現行計画で定めている評価指標についてです。計画で定める「3つの基本目標」に沿って、市民意識調査の項目から指標を設定しております。各指標とも高い水準であり、ほぼ達成に近い状況が多くあります。一方、黄色で示した部分は、若者の朝食欠食率の増加や、健康のために食生活に気をつけることを心がけている人の割合の低下といった現状があります。従

いまして、「若い世代への効果的なアプローチ」や「自然と健康になれる食環境整備」「小さいころからの習慣や意識づけ」を行うためのアプローチが必要と考えます。

続いて、計画の体系図についてご説明いたします。青で囲んだ左側部分、「将来像」と「基本目標」については、第1期から継承しており、食育を推進するうえで基本的なものであるため、次期計画についても継承いたします。オレンジで囲んだ右上部分、「食育活動の内容」については、国が提唱する「ライフコースアプローチ」の考え方を導入し見直しを図ります。「施策の柱」については、この表現で体系づけるのか否かも含めて検討していきます。

ライフステージとライフコースの違いなど言葉の定義について記載しております。今回計画に取り入れる「ライフコースアプローチ」につきましては、病気やリスクの予防を胎児期から老年期までつなげて考えアプローチする考え方となります。こちらは、ライフコースアプローチの考え方を計画に落とし込んだものです。「生活習慣病予防の推進」という取組について、現行計画では壮年期、中年期及び高年期のみを対象として取り組んでいましたが、次期計画では、「生活習慣病予防の推進」は、小さいころからの習慣や意識付けも重要であると考え、幼年期から高年期にいたるまでのそれぞれの時期に取組を設定し、つなげて考えるアプローチを行っていきます。

最後に、食育推進計画は行政計画ではありますが、「市民・地域・行政が一体となって進める食育計画」にしていくため、市民や地域の取組も盛り込んでいきたいと考えております。強化したい視点としまして、市民意識調査結果を踏まえた「若い世代の食育力の強化」や「地域社会で支え、つなげる食育の推進」にも力を入れていきたいと思っております。

続いて、次期食育推進計画の重要な視点である「市民意識調査」につきまして、考察も踏まえ、説明させていただきます。

市民意識調査は、令和6年10月～11月に実施しました。対象者は18歳から74歳の市民2000人、市内大学生250人、子ども意識調査として幼稚園、保育園4・5歳児の保護者、小学校5年生の保護者、中学2年生自身、高校2年生自身に行いました。

6つの項目についてお伝えします。初めに、食育に関する取組の認知状況については、「知っているものはない」と回答した人の割合が、5年前の調査と比較し減少していることから、市の食育に関する取組の認知度が上がってきていることが分かりました。また、学校給食に関する取組の認知度が高いことが分かりました。市に重点的に取り組んでほしい食育の取組でもっとも多い回答は「学校・保育所・幼稚園などでの食育」でした。第4次食育推進基本計画における中間とりまとめにおいても、今後重点的に取組む課題として「学校等における食育推進の強化」をあげていることから、保育園、幼稚園、小学校、中学校における食育の推進について引き続き、重点的に力を入れて取り組むことが必要と考えます。

次に、朝食の摂取状況では、小学生、中学生、高校生、大学生で「ほぼ毎日(週に6～7日)朝食を食べている」と回答した人の割合が減少しており、若い世代で朝食欠食率が上がっています。第4次食育推進基本計画における中間とりまとめにおいて、コロナ禍における生活リズムの乱れが就寝・起床時間に影響を与え、朝食を食べる時間を確保できなくなった可能性が示唆されるとの記述があることを踏まえ、朝食摂取については幼年期、少年期からのアプローチに加え、睡眠や生活リズムと関連した食育の必要性があると考えます。

続いて、共食について、「平日3食+休日3食すべて「ひとりで」食事をする人の割合について、男性60代、女性60代、70代以上で増加しており、高齢者の孤食が増えています。高齢期において、孤食の割合が増えるほど栄養バランスが乱れやすく低栄養に陥りやすいことから、誰かと楽しく食事をする機会を増やすことや、食を通じた地域の居場所づくりについて引き

続き取組を検討していくことが必要と考えます。

生活習慣について、BMI を調査した結果では、男性では 30 代を除くすべての年代で肥満率が増加しており、女性では 10 代・20 代の約2割がやせであることが分かりました。男性の肥満率増加、女性のやせについては全国的な傾向であることが分かっています。生活習慣病予防の観点では、ライフコースアプローチを取り入れた施策の展開や自然と健康になれる食環境整備の推進、無関心層へのアプローチについて引き続き取組が必要であると考えます。

環境に配慮した農林水産物・食品を選択している人の割合は、全体で4割台半ばであり、その中で国産のものを選んでいる割合が最も高いことが分かりました。また、八王子市産の農作物を選んでいる人の割合は前回の調査と比較して増減がありませんでした。本市は、都内随一の農業生産高を誇り、道の駅八王子滝山が文化庁・食文化ミュージアムに認定されるなど豊富な食資源を有しています。地産地消や環境への配慮については、幼年期、年少期からアプローチし、意識づけを行っていくことが必要と考えます。

災害への備えについては、災害により電気・水道・ガスといったライフラインが停止したことを想定して食料を備蓄している人の割合は、全体で6割台半ばでした。また、ローリングストックについて言葉も意味も知っている人の割合は、6割近くでした。国や都の食育計画においても災害時の取組の必要性について書かれていることから、引き続き、災害用食料備蓄の推進や、災害時の食や栄養に関する普及啓発を促進していくことが必要であると考えます。

続いて、今回新たな試みとして取り入れます「ワークショップ」について説明させていただきます。

ワークショップの目的として、関係団体や大学生などさまざまな意見やアイディアを計画に取り入れることで、計画で描く未来の姿を実現することを目的としています。20 名程度の参加者を3つのグループにわけ、話し合いを進めていきます。6 月に第1回の開催を予定しており、8月の第3回ワークショップではこれまでの取り組みアイディアを発表する会として、食育推進会議と合同開催とし、委員の皆様にも発表を聞いていただく会としたいと考えております。

ワークショップのメンバーについてですが、はちおうじ健康応援店や食に関する企業、農業関連団体として農家の方や、高齢者サロン、子ども食堂の代表者、大学生、栄養士連絡会メンバーや庁内関係所管にも参加いただく予定です。

各グループのテーマ案について簡単にご説明させていただきます。グループ1では基本目標の望ましい食習慣を身に着けるという目標をベースに「三食、三色食べる！」をテーマにいたしました。テーマ案については、市民意識調査から分かった八王子市の課題から設定をしております。

グループ1のテーマ案について、意識調査からの課題として、朝食摂取、若い女性の痩せ、男性の肥満、野菜摂取が挙げられております。従って、大学生など「若い世代に朝食をとってもらうためには」といった内容で意見交換をしていただきたいと考えております。グループ2では、基本目標2の「食の基本的な知識、スキルを養う」をベースに「選んで食べる！」をテーマにしております。意識調査からの課題として、八王子産農産物の購入割合横ばいであること、購入時に気をつけていること「特になし」の回答が多いなどが挙げられております。従って、「八王子市産の農作物を購入する人の数を増やすには」といった内容で意見交換をしていただけたらと考えております。グループ3では基本目標3「食を通じて、家族、地域、自然とつながる」をもとに「楽しく食べる！」をテーマとしました。意識調査からの課題としては、高齢者の孤食や地域での共食が挙げられております。議題として、「だれかと楽しく食事をする機会を増やすには」などといった内容で意見交換をしていただけたらと思います。

	ワークショップと通して、様々な立場の方からアイデアやご意見をいただき、計画に取り入れることで、より実行性のある計画にしていきたいと考えております。 最後になりましたが、皆様にご参加いただいております、食育推進会議で引き続き御意見をいただくとともに、庁内の関連所管とも連携を図り、計画策定を進めてまいります。 以上で説明を終わります。
保健所長	事務局の説明が終わりました。御質問、御意見等はございますか。また、全体を通して、御質問、御意見等ございますか。
委員	これから計画を作る中で何を考えていけば良いのかよく分かりました。私は、小学校の現場で勤務していますが、学校としてできる食育の取組は精一杯行っていると思っております。しかし、その中で感じることもあり、先生たちや栄養士さん、調理さんからよく聞きますが、取組を行っている期間は、取組に対する子どもたちの意識は高くなりますが、期間が終わると、そうでは無くなってしまうことが多いです。例えば、学校で「もったいない大作戦」週間を行います、その期間中は、残菜が減る等の効果がありますが、その期間が終わるとまた元の状態に戻る場合が多いです。その為、市でも取組を行う場合、単発的にならないような、継続的にできる食育の取組を行っていく必要があると考えます。
委員	私は、地域で連絡協議会というものをやっております。その中で、防災用品や防災食を活用した取組み等も行いました。しかし、そういった取組みは、学校や地域住民には中々伝わらない状況にあります。また、地域には高齢者が多くいますが、参加していただくことが難しいという現状です。地域社会の活性化を広げるためにも住民同士の横のつながりを広げていけたらと思っております。また、行政においても行政同士の横の繋がりをより広げていただけて欲しいというのは今の思いとしてあります。
保健所長	ありがとうございます。事務局より行政としての「横のつながり」について何か意見はありますか。
事務局	ありがとうございます。この計画策定を目標に、今後、様々な所管と調整を図っていくところです。横のつながりに関して、1つ大きな連携が取れるようになったと感じているのは、栄養士間の連携についてです。本市には 103 名の栄養士職員が在籍しております。これまでは、様々な場所、所管に栄養士が在籍しているため、中々お互いの連携が取れなかった経過がありましたが、令和 4 年に栄養士連絡会というものを立ち上げたことにより、定例会等を通して、栄養士間でのコミュニケーションが図りやすくなり、お互いに情報共有を行うことで、組織横断的に様々な食に関する取組を行っていくことができていると感じております。しかし、栄養士が全ての所管にいるわけではございませんので、今回新たに取組むワークショップや庁内連絡会の中で、栄養士だけでなく各所管のご意見や本会議で出た意見を伝えていけたらと感じております。
委員	先ほど孤食についてのお話を伺った時に、市民意識調査の結果から、高齢者の孤食が増えているというお話がございました。それに関連して、昨今、テレビのニュースを見てみると、10代の子どもが起こす事件が多いと大変気になっております。その背景として、孤食や貧困、シングルマザーの家庭で、母親がずっと働いているために、子どもが食事を満足に取れないといったことを聞いたことがございます。学校で様々な食育をしていたとしても、家庭に戻った時に、子どもの孤独感を増していく場合もあるのではないかと懸念しております。美味しい食事を楽しく取れる機会を増やし、その子どもたちに体だけでなく心にも栄養を届けるような気持ちで何かできることはないかなと考えています。先ほど、行政の横のつながりについてお話がございましたが、市の様々な所管の意見を聞いていただきながら、食育の推進に役立つようなことがあ

	れば行っていただきたいなと思います。
保健所長	ありがとうございます。委員の皆様の中でも子ども食堂の関係などに携わっている方もいらっしゃると思うのですが、何か御意見いかがでしょうか。
委員	子ども食堂ではないのですが、他自治体でも同じような食育の推進会議にも出させていただき、実際に関わった事例です。そちらでも、家庭の様々な事情があり、お子さんが状況も違う中で、どういった食育を進めていけるか考えていきました。そして、高齢者と子どもの2つの世代に対して同時に何かできることはないかということで、「日曜喫茶」という取組を始めました。毎月まずは1回から、日曜日にオープンカフェのような形式で始めていました。内容としては、パンを焼いたり、運んだりなど、子どもたちが喫茶店のお手伝いをすることで、地域の方々から提供していただいた野菜やパンなどの食材を、無料または100円で買える仕組みで取り組んでいました。また、誰でも参加でき、学校の運動場では、ゲートボールのようなコーナーを作り、高齢者や子どもたちが一緒に遊ぶなど活動を行っていました。最初は高齢者と子どもたちに向けた活動として始めていたのですが、子どもたちからの口コミで家族の方も来られるようになり、学校でとても好評になりました。取組を継続していくことで、どんどんより良い形になっていき、地域ぐるみで取り組むことができました。横のつながりという部分で、八王子市でも何か1つになってきたらということ、今後のワークショップ等を通して考えていければ良いのではと思います。
委員	災害食ではなくても、「非常時にこれだけ食べておけば良い」というようなメニューを行政側で示していただきたいです。物価高騰の影響や家族が病気やケガであったり、仕事が多忙であったりなど、様々な状況の方々いると思います。これだけ生活に追われた場合でも、「何を食べて、家に置いておけばそれで良い」というのを、必要最低限となる食品等を、行政で分かりやすく提示していただけるととても助かると思います。普段の食事に対して、「これでいいのかな」という不安がある方もいると思いますので、災害時ではなく、必要最低限のメニューを行政側で出していただくと助かります。
委員	「ローリングストック」という言葉が先ほども出てきましたように、日頃使い回せるものというのは、やはり災害時には絶対にあった方が良いと思います。水やお湯を入れるだけで出来上がるような災害備蓄食もありますが、そういうものは、いつも賞味期限が切れて、使えなくなり、結局捨てしまうというようなお声も、先日行われた健康フェスタ・食育フェスタでもたくさんありました。その為、普段から使い回せるようなもののご提案というのは、私も必要だなと感じております。八王子市の栄養士さんたちで作っている、乾パンをアレンジしたレシピや、パッククッキングと言う、熱に強いビニール袋に、食材を入れて作る災害時のレシピについてのご案内をイベント時に周知啓発しているところがございます。
事務局	先ほど、令和4年度に八王子市の栄養士連絡会が立ち上がったという話をさせていただきましたが、その中でも災害検討部会を設置しております。令和5年度に検討部会で「かんぱんアレンジ・パッククッキングレシピ」を作成いたしました。こちらのレシピ集をイベント等で市民に配布をしております。レシピ集の内容としては、備蓄している乾パンが余りすぎたときに、アレンジして食べやすいように工夫したレシピや災害時にポリ袋を活用し、簡単にできるレシピを掲載しております。 また、今回の意識調査で、家庭で備蓄している食料の種類について聞いていますが、1番多い回答が「パックご飯」や「麺類」と、炭水化物に偏っていました。その為、備蓄の中でも、ご飯やパン、麺だけではなく、魚、肉、豆などの缶詰や日持ちする野菜や野菜ジュース等、バランスよく用意しておくことが必要ということについては、普及啓発していく必要があると思います。まず

	は自助が大切だと思っていますので、そのような意識付けを行っていきけるように引き続き活動していきたいと思います。
委員	私はスポーツ現場で働くことが多いのですが、親御さんが忙しいために、小・中学校のお子さんが自分で食事を用意して体を作っていかなくちゃいけないという現状があります。スポーツ現場で働く栄養士たちも、最低限用意しておく食材や、「その食材を組み合わせればそこそこ良いメニューになるよ」ということを子どもたちや保護者の方にお伝えをしています。料理が上手なお母さんが作る料理ほどはエネルギーや栄養価は高くないにしても、程々に良いメニューとして提案を行うことはあります。災害食までは行かないにしても、日頃をなんとか生きれるというか、時間がない中で何を食べておけば良いのか、時間がある時に多めに野菜を取っておけば帳尻合うよということは、大学の授業とかアスリートに対しても私はよく話しております。例えば、「コンビニで買ったお味噌汁にカットワカメを入れなさい」とか、「常にバナナを用意しておいて、それとプラスでヨーグルトを食べましょう」とか、そういった提案はできるかなと思いますので、最低限用意しておくべきもののリストがあるととても良いかなと思いました。
保健所長	ありがとうございます。他に御質問、御意見等はございますか。それでは、本日予定しておりました議事は終了いたします。議事進行に御協力いただきありがとうございました。それでは、進行を事務局に戻します。
健康づくり推進課長	次第の3つ目、「その他」に移ります。 まずは、委員の皆様より連絡事項などございますか。それでは、事務局より連絡事項をお願いします。
事務局	本日、お配りしている御意見シートについては、追加で御意見がありましたら、御記入いただき、5月29日(木)までに、下記に記載のメールアドレスまたはFAXで御提出くださいますようお願いいたします。 最後に、次回の第2回食育推進会議は7月10日(木)14時30分からを予定しておりますので、ご参加いただきますようよろしくお願いいたします。
健康づくり推進課長	本日は、お忙しい中御出席いただき、ありがとうございました。 皆様にいただいた御意見を踏まえ、第4期食育推進計画の策定作業を進めて参ります。よろしくお願いいたします。本日は、お忙しい中御出席いただき、誠にありがとうございました。